

● **竹蛇籠の試作 1 日、深田、播川、山村 2 日にも試作** 9 月 3 日の川に学ぶ体験活動全国大会の全国事例として竹蛇籠の取り組みを北野大輔君が発表することになり、生き生きした竹蛇籠が良いのではないかとということで、製作することになりました。真竹の切出し、運び出し、枝払い、長さ合わせ、竹割り、節とりを行い製作場所へ移動、小林君や橋口君など学生諸君が 4 人も参加してくれました。午前中は、今年最後の木津川での親子で遊ぼう学ぼう魚とり、で木津川本川での川流れを行い、昼食休憩の後、14 時からの作業でした。準備が整って、竹を組み初め、もっとも簡単な方法で編上げました。正四角形の網目ですから交互に横竹を回せばいいのですが、要領を呑み込めない最初は随分戸惑いました。簡易な改良型として 3m 近い大物になりました。改良型ではまずいと思い本格的に編上げた正六角形や正三角形の網目となる編み方に挑戦しましたが、これは非常に困難です。大人 3 人が頭をひねって挑みましたが、第 2 段階の所で前に進めることができなくなります。これは時間をかけて丁寧に手順を呑み込まないと相当複雑で、一度や二度の経験ではできない職人の作品だということが判りました。

● **里山農園** 31 日の事務局会議で農園担当者からの作業計画表の提出をいただきました。2 回の作業日を予定していましたが、計画通りに作業が進められませんでした。それでもやっと里芋の草引きを完了できました。カボチャ畑の蔓撤去にまでは及びませんでした。間もなく秋野菜、冬野菜の種を撒かねばなりませんので、後回しとならざるを得ません。10 日には種まきを予定しています。この作業を行いながら撤去作業を並行して行うつもりです。地道な作業ですが、収入の少ない里山の会の、数少ない収入源となっています。お手伝いをお願いします。

● **第 16 回川に学ぶ体験全国大会 270 人の参加で盛会に終わる** 開会式に続き基調講演直後、全国事例発表のうち地元事例として「河川レンジャー発足の背景と制度、そして成果について」の説明を河川レンジャー事務局の勢戸口康子さんが行いました。続いて地元の具体的な活動モデルとして「北野君と小林君が竹蛇籠の取組みとその成果を紹介」しました。この日は 4 つの全国事例が発表されましたが、北野君と瀬戸口さんの発表が判りやすく具体的で要領よくスピードあるお話で、かなり高い評価がありました。交流会でも翌日のエクスカージョンでも反応がダントツでいいお話であったと評判でした。早速竹蛇籠の製作指導をいただきたいのですがといった要望も聞かれました。小林君が会場内で竹蛇籠を持って歩いて回ったことが一層身近に接しられたのだと思います。北野君・小林君、研究や学業の傍ら時間を割いて準備を進めてくれてご苦労様でした。

● **開会セレモニーに引き続き、5 つの分科会で議論を進めました。** 安全、環境、水辺・親水、文化、防災について話し合いました。いずれの分科会でも事例発表者を中心にして話題提供があり、体験を語って課題を深めあいました。約 1 時間というハンディを乗り越えて学びあうことができました。引き続く全体会議では要領よく報告がされ、ここでも短時間で盛りだくさんの課題をまとめられたと思いました。そのうえで参加者全員の思いをまとめた宣言文も確認され、大会フラッグが次回開催の九州の紫川さんに引き継がれました。約 4 時間のプログラムですが、これまでだと一日をかけてきたそうです。関西の底力が発揮されたと評価が多くの方々から聞きました。私は準備状況からして薄氷を踏む思いでしたが、経験者の強力な協力と、阿吽の呼吸で無事に終了されたと思います。

● **翌日の 4 つのエクスカージョンのうち、京都コースに参加しました。** 集合は京阪八幡市駅前 9 時 20 分で、私が到着した 8 時 20 分には、早くも 10 人程がお待ちでした。担当者の鈴木さんが来られるのを待って受付開始。その間エジソンの電球発明のフィラメントは八幡市の竹だったと説明。定刻に出発、三川合流での拠点センターの展望台設置場所を見学、背割り堤の散歩、越冬

昆虫について説明、宇治に向かう車中で内田公昭さんから巨椋池と宇治川の歴史、地域の暮らし、28年大水害の事例、天ヶ瀬ダム建設と巨大な住宅開発について詳しい説がされる。宇治市内では観光ガイドさんから宇治茶、宇治橋と三の間、源平合戦、宇治神社や平等院などの世界遺産、朝霧橋を渡って塔の島でダム統管の新川さんから天ヶ瀬ダムの役割などについて詳しい説明を聞く、そして酒で有名な伏見に移動、黄桜で昼食をすませ、カップ資料館で解説を聞き、月桂冠の大倉酒造、竜馬で有名な寺田屋を垣間見て琵琶湖疎水の派流・濠川（ほりかわ）を観光船で三栖の閘門（昭和3年以完成された塔）へ進む、日ごろは入れない閘門の最上階16mから足元の宇治川を越えて南の干拓された巨椋池から南山城、宇治川から男山、天王山。愛宕山への西山、北に位置する比叡山を中心にした北山、稻荷山への東山を一望。降りて資料館で閘門について谷口さんから詳しい説明を聞く、竹田街道を北進、鴨川に出て川端通りを登る七条大橋。五条。四条。御池を過ぎて高瀬川へ進み、琵琶湖疎水や鴨川の代表的な段差堤を見ながら角倉了以と唯一残る高瀬川の舟運の一の入船遺跡を巡って、三条大橋で集合写真を撮影して解散でした。かなり強行軍の日程でしたが皆さん満足顔でした。

● 11日 第20回里山講演会の成功へご協力をお願いします。特別講演の「アユの遡上と利用」についてはかなり関心の高い話題です。朝日新聞・京都新聞・ラクナタイムスが案内記事を掲載いただきました。秋は文化やスポーツの季節と言われます。同時に学習の季節です。里山の会では実りの秋として調査観察を行ってきた発表のチャンスと位置付けて各地の催しに積極的に参加し、成果を広くお伝えしてきました。今回の第20回の講演会は、里山の会結成20周年を記念して未来を託せる若者の皆さんに得意分野の研究成果を発表いただきます。ぜひ多くの方々のご参加をお願いいたします。また、特別講演は木津川におけるアユの生育に関して研究家として有名な谷口信彦氏（河川レンジャー）にお話をいただきます。講演会では一度アユについて企画されましたが、今回の谷口さんは時間の許す限り釣り竿を持って歩いておられる現場第一で活躍されておられます。そこで得られたデータをもとに研究されています。まさに皆様のご期待に応えられる指導者でもあります。ぜひともお越しください。先着順、60席で満員です。お早めにご来場ください。

11日(日)13時開場 京田辺市中部住民センター里山講演会で 自然の素晴らしさを深めよう!!

● タヌキマメの保全に御協力をお願いします。結成当初、木津川堤防で発見してきたタヌキマメは、堤防強化工事の結果、数年間出会うことができませんでした。多分絶滅したのではないかとわれてきました。8月末に木津川堤防で久しぶりに開花が確認されました。芽を出さないで休む間もあるのではないかとされます。元気に咲きだし、復活しております。工事跡のこの環境をしっかり維持することが大事ではないでしょうか。植物に関心をお持ちの皆様。貴重種の開花をともに喜んでいただく皆さま、これから生育条件の確保維持がますます大切になってくるとされます。環境維持のお手伝いにぜひお越しください。

● 会誌41号原稿募集 再度「里山の会20周年記念」「里山の会と私」として原稿募集を行います。これまで20年間あるいは15年間そして10年間もの長きに亘って在籍いただきました皆様が130名もおいでになります。こうした皆様方にぜひとも「里山の会と私」と位置づけ各位の副題を設けていただきご寄稿をお願いいたします。思い出の写真や活動、見学や視察・講演会や観察会、調査会や発刊、随分気を使った初めての取組み、数えればきりがいいほどいっぱい詰まって思い出があります。この20年の節目をいい機会として気楽にご協力をお願いいたします。原稿締め切りは9月20日となっています。気楽に一言からお願いします。